



# 夏に行きたい パブ13選

リバーサイド   ビアガーデン   ルーフトップ

いまの季節に気持ちいいパブを

タイプ別にご紹介します！

## ビール&ピザが好相性 ロンドン東部 Crate Brewery & Pizzeria

2012年に元印刷所をリノベーションしてオープンしたブルワリー「Crate」では、ブルワリーにバーを併設し、石窯焼きのピザを提供する。クリスピーに焼かれたピザは、ビールとの相性がぴったりとあって、ロンドナーの関心もビールの美味しさも共にアップ。隣接する運河を挟んだ壁に描かれたグラフィティが若いエネルギーを感じさせる＝写真左＝一方で、ゆっくりと運河を進むナローボートのどかな印象を与えてくれる。そのバランスの面白さはイーストロンドンならではの。

**Crate Brewery & Pizzeria**  
Unit 7, Queens Yard, Hackney Wick, E9 5EN  
📍 Hackney Wick <http://cratebrewery.com>



▲同じ「ペールエール」でもカスク（樽内熟成）、ボトルなど異なるコンディションのものが用意されているので、保存法による味の違いを確かめたい探究心旺盛なビール好きはぜひお試しを。

ロンドン南東部

名物は「ホワイトベイト」

## The Trafalgar Tavern

カティ・サーク駅から旧王立海軍大学の敷地を通り抜けてたどり着く「The Trafalgar Tavern」。ヴィクトリア女王が即位した1837年にオープンし、チャールズ・ディケンズの小説『我が共通の友』にも登場する。グリニッジで獲れたホワイトベイト（小魚）は、ヴィクトリア朝時代にオシャレな食べ物として知られており、政治家の間では国会休会前にこのパブを訪れ、ホワイトベイトを食すこと（ホワイトベイト・ディナーと呼ばれた）が、恒例行事だった。第一次世界大戦後には海軍上等兵の邸宅として利用されるが、1965年に再びパブとしての営業がスタートした。かつてのグリニッジ名物ホワイトベイトはいまも健在。「クラシック・メニュー」として人気を集める。

**The Trafalgar Tavern**  
Park Row, SE10 9NW  
📍 Cutty Sark [www.trafalgartavern.co.uk](http://www.trafalgartavern.co.uk)

  
グリニッジ観光  
をかねてGo!



▲ 瀟洒なジョージアン様式の建物はリストッド・ビルディングにも指定されている。2フロアにわたる店内は、ネルソン提督や船にまつわる絵画で彩られている。

▶ 小魚をフライにし、レモンをしぼって食べるシンプルな1品「Greenwich Whitebait」（7.50ポンド）。地味な見た目だが、酒の肴にはぴったり。



▲ パブの前で、テムズ河を行き交う船をひとつひとつ検閲するかのようにして立つネルソン像。トラファルガーの海戦から200年を迎えた2005年に建立された。

広々としたテラスで開放的なパブ・ナイト

## The Ship

ロンドン南西部

ワンズワース橋のたもとにある「The Ship」は、橋ができるよりも以前の18世紀後半、船の往来がテムズ河をにぎわしていたころに、近くの波止場を訪れる船乗りらの宿場をかねたパブとしてオープン。19世紀に架橋され、あたりの埠頭は住宅街としての歴史を歩み始めるなど、取り巻く環境は時代とともに変化するも、変わらずパブとして客を迎える。静かに流れるテムズ河に面したテラス席は、海辺の町にいるような開放感を与えてくれ、夜になると地元客でひしめき合う。定期的に開催されるライブ・ミュージックに合わせて盛り上がる様子は



「Amazing!」とスタッフも胸を張る。

**The Ship**  
41 Jews Row, Wandsworth, SW18 1TB  
📍 Wandsworth Town  
[www.theship.co.uk](http://www.theship.co.uk)

テラス席の料理はポップアップ・ストール「Burger Shack」が担当。写真はカーリーな形のポテト付ビーフ・バーガー「The Classic」(14ポンド)。



# Riverside



ロンドン西部

ビートルズゆかり

## The City Barge

キュー・ブリッジからテムズ河沿いに伸びるフットパス「Strand-on-the-Green」を歩いておおよそ10分の場所にある「The City Barge」。ビートルズ主演の映画『Help!』内で、追われるビートルズが逃げ込んだ店として知られ、多くのファンが訪れるが、ロケ地という『肩書き』に甘んじることなく、ガストロ・パブとしても大盛況。パブ定番のサンデー・ローストはもちろん、魚料理も充実。

テムズ河で『川床』体験

## The Mayflower

ロンドン南東部

宗教対立が続いていた17世紀の英国で、信仰の自由を求めて米国にわたった清教徒らに乗せた船が近くに停泊していたことにちなんでその名が付けられたパブ「The Mayflower」。パブとしての歴史はもっと古く、1550年ごろからこの地で船乗りたちのノドを潤してきた。流れた月日の長さを感じさせる薄暗い店内は、しっとりと飲むのに最適。一方、晴れた日には、テムズ河に突き出すようにして設けられた『川床』を思わせるデッキへ。パイント・グラスを傾けながら打ち寄せる水の音に耳を澄ませれば、船の汽笛さえ聞こえてきそう。

**The Mayflower**  
117 Rotherhithe Street, Rotherhithe, SE16 4NF  
📍 Rotherhithe [www.mayflowerpub.co.uk](http://www.mayflowerpub.co.uk)



▲フットパス沿いのテラス席は大潮の時期に浸水することもあるが、テムズ河に浮かぶオリバーズ・アイランドやウォーター・スポーツに興じる人々を眺めながら、ゆっくり食事が楽しめる。  
◀「Roast Suffolk Chicken, Chipolata & Stuffing」(14.95ポンド)。

**The City Barge**  
27 Strand-on-the-Green, Chiswick, W4 3PH  
📍 Kew Bridge / 📍 Gunnersbury  
[www.citybargechiswick.com](http://www.citybargechiswick.com)

## ルーフトップの家庭菜園

### The Culpeper

ロンドン東部

地元スピタルフィールズで活動した17世紀の植物学者ニコラス・カルペパーからその名を取った「The Culpeper」。4階建てのヴィクトリアン様式のビルで、まず手始めにグランド・フロアにパブを、1stフロアにレストランをオープンしたのが2014年。翌年に最上階ルーフトップに『家庭菜園』バーを設置した。さらに2016年には2ndフロアに5組限定のベッドルームを設けて、ホテル業に乗り出し、現代版のスタイリッシュな「inn（宿泊施設をかねたパブ）」を完成させた。ルーフトップでは、キッチンで使われる野菜が栽培され、ときおりシェフが野菜を摘みに訪れる姿に、食への信頼感が増す。

The Culpeper  
40 Commercial Street, E1 6LP  
Aldgate East  
www.theculpeper.com

階ごとにメニューは少しずつ異なり、ルーフトップでは炭火焼スタイルのタパス風料理を楽しめる。



## イーストロンドンの穴場

ロンドン東部

### The Crown and Shuttle

ヴィクトリア朝時代のパブの廃れた佇まいに、何も知らなければ素通りしてもおかしくはない。「The Crown and Shuttle」は1860年代にパブとしてオープン。1990年代にストリップ・バーへと姿を変えたが、2000年に入って閉鎖され、廃墟と化した10数年を経て、また新たにパブとして復活を果たした。昔ながらのパブらしいシャビー

さを残しつつモダンにアレンジされた店内と、その奥にはビア・ガーデンが広がる。金融街シティと、流行に敏感な若者に人気のショーディッチの境目という立地で、スーツ姿のビジネスマンから、独自のファッションで個性を発揮するクリエイティブ系の人まで、幅広い層に支持される。

The Crown and Shuttle  
226 Shoreditch High Street, E1 6PJ  
Shoreditch High Street www.crownandshuttle.com



▲スタッフ押し「Bavette Steak Sandwich」(9.50ポンド)。料理はガーデンに停車中のワゴンで作られる。バラエティは少ないものの、侮れない美味しさ。  
◀カラフルにデコレーションされたガーデンは楽しいイベント会場のような雰囲気、心が躍る。

ロンドン北部

ブルワリーでフレッシュな1杯

### Beavertown Brewery Taproom



2011年に誕生したブルワリー「Beavertown」では、毎週土曜にブルワリーを一般開放し、ビーバータウン自慢のビールを提供する。クラフト・ビール系のパブで引っ張りだこのアメリカン・ペール・エール「Gamma Ray」をはじめ、およそ10種類のフレッシュなビールがサーバーから注がれる。トテナム・ヘールという立地は観光に不向きだが、わざわざ訪れても損はない美味しいビールが味わえる。定期的に入れ替わるフード・ストールもあり。

Beavertown Brewery  
Units 17 & 18, Lockwood Industrial Park, Mill Mead Road,  
Tottenham Hale, N17 9QP  
Tottenham Hale www.beavertownbrewery.co.uk



## 藤の木に覆われたガストロ・パブ

### The Albion

ロンドン北部

藤の木に覆われたジョージアン様式の建物が目を引くガストロ・パブ「The Albion」。店内へと足を踏み入れると、ダークブラウンのフローリングと木製家具が初めて訪れた人にも懐かしい温もりを感じさせてくれる。この雰囲気と、英メディアで高評価を得る料理のおかげで、イズリントン地区の閑静な住宅地で安定した人気を誇る。店内奥のガーデンでは、存在感のある藤の木が強い日差しを和らげて優しい光を落としてくれ、天気の良い夏の日などは最高に気持ちがいい！

**The Albion**  
10 Thornhill Road,  
Islington, N1 1HW  
Angel  
<http://the-albion.co.uk>



エンジェル駅およびハイバリー&イズリントン駅からは徒歩15分弱。ディナータイムおよび週末は予約推奨。



## Beer Garden



控えめな味付けで日本人の口にも合う「Roast Chicken, Bread Sauce」(15ポンド)。日曜はサンデー・ローストを楽しむ家族で大にぎわい。

### 地元民の憩いの場

### The Grange

ロンドン西部

イーリング・コモン駅から徒歩10分弱。公園を突き抜けた場所に位置する「The Grange」は、1871年にオープンして以来、地元民の憩いの場としての役割を担ってきた。絵本に出てきそうな可愛いガーデンをはじめ、ダイニング、バー、コンサバトリーなどそれぞれのスペースは、笑顔がチャーミングな看板女将のバーバラさんの愛情がたっぷり注がれ、老若男女が心地よく過ごせる空間となっている。

**The Grange**  
Warwick Road, Ealing, W5 3XH  
Ealing Common  
[www.grangeealing.co.uk](http://www.grangeealing.co.uk)



ファミリー  
フレンドリー





都会の空中庭園

ロンドン西部

## The Roof Gardens

ケンジントン・ハイ・ストリートの空中庭園「The Roof Gardens」。保護指定（グレード2）される6000平米の敷地には、スパニッシュ・ガーデン、チューダー・ガーデン、イングリッシュ・ウッドランドなど異なる様式で庭園が整えられている。トレードマークのピンク・フラミンゴが棲息し、インスタ時代の今、ますますの人気者。会員制およびプライベート・イベントが開催される場合を除いて、昼は一般に無料開放され、夜は併設されるレストラン・バー「Babylon」利用者を対象に優雅なひとときを提供する。

### The Roof Gardens

99 Kensington High Street, W8 5SA

📍 High Street Kensington

[www.virginlimitededition.com/en/the-roof-gardens](http://www.virginlimitededition.com/en/the-roof-gardens)

入場にあたってはID提示が必須。



スカイラインを一望

ロンドン中心部

## Radio Rooftop London

1922年に英公共放送「BBC」がラジオ放送を開始したのがこのビルだったことが、屋号「Radio Rooftop London」の由来。英建築家ノーマン・フォスターによってデザインされた、ストランドの5つ星ホテル「ME London」の6階に位置し、テラスからは、テムズ河をはじめウェストミンスターの景色が一望できる。デートや記念日におしゃれをしてお出かけを。

### Radio Rooftop London

ME London, 336-337 Strand, WC2R 1HA

📍 Temple <http://radiorooftop.com/london>



カジュアルなルーフトップ

## Sisu London

ロンドン中心部

5つ星ホテル「London Marriott Hotel Park Lane」4階のテラス部分に、毎年夏に登場するルーフトップ・バー。今年はフィンランド語で魂・回復などを意味する「Sisu」の名で、北欧をテーマにデコレーションされた。ホテルのバーといっても気取った雰囲気は一切なし。それどころか、カクテル「ネグローニ」を作ってくれるレトロなマシンがあるなど、遊び心さえ感じられる。友人とのカジュアルな1杯にもってこい。



「Crispy Squid」(9ポンド)。料理は、ミニバーガー、ライスコロッケなどの軽めのラインアップ。オックスフォード・ストリート沿いにある入り口は少しわかりづらい。小さな看板を注意深く探してみてください。

### Sisu London

535 Oxford Street, W1C 2QW

📍 Marble Arch [www.sisu.london](http://www.sisu.london)



ラム・ベースのシグネチャー・カクテル「Tropical Punch」(14ポンド) = 写真上。バー・スナックは、チップスやチーズの盛り合わせ、牛ステーキなど(6~14ポンド)。